

野口宇宙飛行士搭乗のソユーズ宇宙船の帰還について

[宇宙開発委員会委員長談話]

野口宇宙飛行士らが搭乗したソユーズ宇宙船が、日本時間の6月2日、カザフスタン共和国に、無事帰還したとの報告を受けました。

今回のミッションでは、野口宇宙飛行士が日本人として最長となる約5ヶ月半にわたり、国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在しました。この間、日本の実験棟「きぼう」の本格利用を開始させるとともに、低コストで高効率な太陽電池の開発に資する新しい材料(ナノスケルトン)の作成実験や、自身を被験者とした骨粗しょう症に関する医学実験といった宇宙環境を利用した様々な実験を行うなど広範な活動を行い、多くの成果をあげました。

また、4月には、スペースシャトル「ディスカバリー号」に搭乗しISSでのミッションに参加した山崎宇宙飛行士とともに作業に従事し、日本で初めて、日本人2名の宇宙同時滞在となりました。さらに、野口宇宙飛行士は、ソユーズ宇宙船での打上と帰還時に、船長を補佐する重要な役割も果たしました。こうした日本人宇宙飛行士の活躍は、新たな時代の到来を予感させ、国民、特に青少年に夢と希望を与えるとともに、日本の有人宇宙技術のさらなる飛躍も期待させるものです。

宇宙開発委員会としても、今後有人宇宙活動をはじめとする宇宙開発利用への理解が進むとともに、日本人宇宙飛行士がますます活躍し、ISSから多様な成果が創出されることを期待しています。

平成22年6月2日

宇宙開発委員会 委員長

池上 敏彦